

東海地震の警戒宣言

東海地震を予知するための観測データに異常が見つかったと、その程度に応じて気象庁は「東海地震に関する情報」を発表します。異常がわずかな時は「観測情報」を発表し、さらに異常なデータが増えると「注意情報」を発表します。これは黄色信号に当たり、様々な対応が開始されます。さらに専門家による地震防災対策強化地域判定会が「東海地震の発生の可能性が高い」と判断した場合は、内閣総理大臣が「警戒宣言」を発令します。名古屋大学では、注意情報発表で対応を開始します。この場合、講義等をすべて中止し、研究室や実験室などの災害防止措置を行った後に、非常要員以外はすみやかに帰宅します。

警戒宣言が発令されたら、社会活動はどうなる?

警戒宣言が発令されると、地震対策強化地域(静岡、愛知など1都7県263市町村)では地震に対して様々な準備行動が開始され、日常生活に大きな制約があります。具体的には以下のような対応が予定されています。これらを良く理解し、適切な行動をとれるようにしておく必要があります。

- 鉄道・バス・タクシー：運行を停止(名古屋より西の新幹線は運行)。ただし警戒宣言前に可能な限りの輸送を行う。
- 道路：強化地域内への進入禁止、避難路・緊急輸送路では交通規制、速度規制など。
- 銀行・郵便局：一部のATMを除いて営業停止。
- 百貨店、スーパー、コンビニ：原則は営業中止だが、耐震性のある店舗に限り事業者の判断で営業を継続。
- 病院：地震発生時の災害医療を行う病院と、地域医療を継続する病院の役割を分担する。
- 学校：授業を打ち切り閉鎖。学童は帰宅又は保護者に引渡す。
- 電気・ガス・水道：引き続き供給するが、なるべく使用しないよう呼びかける。
- 電話：できるだけ使わないようにし、話は短く。通話料が増えると規制がかかり、防災用電話が優先される。携帯電話も音声はつながりにくい見込み。公衆電話はつながりやすいが、テレホンカードは停電時に使えないので、硬貨を準備しておこう。

非常時の連絡方法を確認しよう

地震災害のとき、家族、友人、大学と連絡をとる方法はたいへん重要です。一般の電話や携帯電話(音声)は非常につながりにくくなります。その場合、災害用伝言ダイヤル171や携帯電話の災害用伝言板サービスなどを活用しましょう。これらは災害時のみ利用できますが、普段でも体験できる日があります。

災害用伝言ダイヤル171

171番に電話をかけて、音声ガイダンスに従い「被災地内の電話番号(市外局番を含む)」を暗証番号にすると、安否等の伝言を1伝言あたり30秒、計10伝言まで預かってくれるサービスです。

災害時のみ利用できますが、例年、防災週間(防災の日(9月1日)を含む1週間)および防災ボランティア週間(1月15日~1月21日)、毎月1日などに体験することができます。

<http://www.ntt-west.co.jp/dengon/index.html> (NTT西日本)

災害用ブロードバンド伝言板web171

ブロードバンドの特性を生かして、音声や画像も登録できます。
<http://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/index.html> (NTT西日本)

携帯電話の災害用伝言板サービス

携帯電話のデータ通信では、災害時になると「災害用伝言板」がトップメニューに出てきて、その伝言板を通して安否確認の連絡ができます。詳細は下記URLから調べてください。安否連絡先の事前登録システムもあります。

NTT DoCoMo : <http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/index.html>

au : <http://www.au.kddi.com/notice/dengon/index.html>

SoftBank : <http://mb.softbank.jp/scripts/japanese/information/dengon/index.jsp>

TU-KA : <http://www.kddi.com/tu-ka/tokai/service/dengon/index.html>

Willcom : <http://www.willcom-inc.com/ja/info/dengon/index.html>

名古屋大学ポータル (mynu.jp)

名古屋大学ポータル(名大ポータル、<http://mynu.jp>)は、授業登録などだけでなく、さまざまな情報伝達に利用できます。災害時には、自分の状況や連絡先を速やかに大学に知らせるために使用します。具体的な使用方は、名大ポータルにアクセスすればわかります。また年2回の情報登録訓練も行いますので、日ごろから扱い方になれておいてください。

緊急時の学内連絡先

各キャンパス内では下4ケタで内線から通じます

○緊急時(終日)、救急車を要請した場合も下記に連絡

「学内110番(本部守衛室)」内線110、または789-4917・4918

○学部等教務学生掛等(平日昼のみ)

●東山キャンパス

・学務部学務企画課	789-2158	・情報科学研究科	789-4721
	2164	・多元数理科学研究科	789-5756
	5755	・国際言語文化研究科	789-4881

・文学部	789-2206	・環境学研究所	789-4272
・教育学部	789-2606	・教養教育院事務局	789-4725
・法学部	789-2317	・災害対策室	788-6038
・経済学部	789-2357	・保健管理室	789-3970
・情報文化学部	789-4721	●鶴舞キャンパス	
・理学部	789-2808	・医学部医学科	744-2430

●大幸キャンパス

・工学部	789-3599	・医学部保健学科	719-1518
・農学部	789-4010	名古屋第二赤十字病院	832-1121(代)
・国際開発研究科	789-4952	名古屋大学医学部附属病院	741-2111(代)

名古屋大学地震防災訓練

毎年10月に全学地震防災訓練を実施しています。総長以下、教職員や学生など全員参加です。講義を中止して地震時の対応行動の訓練を行います。また防災講演会や救急救命講習会などもあります。積極的に参加し、災害時の行動や準備内容の確認をしましょう。

平成19年度版 名古屋大学地震防災ガイド

学生のための

地震防災はなぜ必要か?

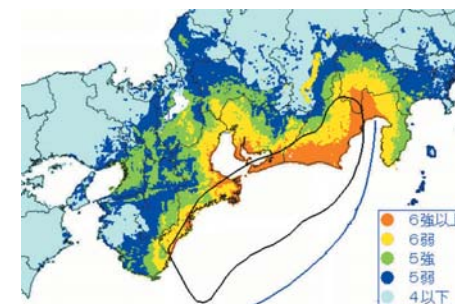
東海地域では近い将来に東海地震・東南海地震などによる大災害の発生が予測されています。名古屋大学で学ぶに当たって、地震から命を守り、災害に適切に対応するために、すまいの選択や室内の安全確保、非常用品の準備などが必須です。また大学内には実験機器・薬品や重量物など地震時に危険なものも多数あります。地震災害を人ごとと考えず、ぜひ事前の備えをしていきましょう。



東海地方で想定される大地震は?

東海・東南海地震などの海溝型巨大地震

駿河湾から四国沖につながるプレート境界では100~150年おきに繰り返し巨大地震が発生しています。しかし駿河湾から遠州灘では150年以上も発生していないため、いわゆる「東海地震」の発生が危惧されています。また1944年の東南海地震から60年以上がたち、東海地震・東南海地震が同時に発生する可能性もあります。この場合は右図のように静岡県・愛知県・三重県の広い範囲で震度6以上となります。



東海地震と東南海地震が同時に発生したときの震度(内閣府による)

内陸活断層の地震

東海地域には多くの活断層があることが知られています。活断層の地震は都市の足下で発生するので、狭い範囲で強い揺れによる甚大な被害が出ます。1995年阪神・淡路大震災、2004年新潟県中越地震などが代表例で、東海地域でも1891年の濃尾地震などがあります。また1944年東南海地震の1ヶ月後に発生した1945年三河地震のように、東海・東南海地震の前後に内陸活断層の地震も活発になる可能性があります。

どのような被害が起こる?

建物の倒壊

阪神・淡路大震災では10万棟以上の建物が全壊し、多数の死者を出しました。古い家に住む高齢者や学生の犠牲者が多かったのも重要な点です。1981年以前に着工した建物は古い耐震基準のため、耐震性が劣る場合があるので、耐震診断・耐震改修を行う必要があります。



家具の転倒

建物の耐震性が十分でも、強い揺れにより室内の家具が転倒し、下敷きとなって大けがや死亡することがあります。特に上階では揺れが大きくなるため、タンス、本棚、ピアノなどの重量物はきちんと固定する必要があります。



火災

地震時には多数の火災が同時に発生し、消火も難しく、大火になる可能性があります。初期消火に努めると同時に、通電出火を防ぐためにブレーカーを落とすことも重要です。

津波

海溝型地震では、海底の地殻変動により津波が発生します。東海・東南海地震では、発生後数分で御前崎に、20分以内に愛知県や三重県の太平洋沿岸に高さ数mの津波が押し寄せます。海岸付近で揺れを感じたら、すぐに高い場所に避難する必要があります。

大地震が発生したら…

自分の身を守る(最初の数秒)

強い揺れを感じたら、危険な家具や器具などから離れて、丈夫な机の下などで身の安全を図ります。特に頭を守るように注意しましょう。可能なら扉を開けて避難経路を確保します。

揺れがおさまったら(2~3分)

落ち着いて火を止め、電気のブレーカーも落とします。周辺の人が無事を確認して、あわてずに避難します。あわてると、転んだり落下物やガラスなどでけがをするおそれがあります。避難にはエレベーターは使わないこと。閉じこめられるおそれがあります。

避難したら(5~10分)

情報や指示を良く理解し、パニックや二次災害を防ぎましょう。大学では、ここで避難者の確認をします。

安全に気をつけて消火や救助の支援(1~数時間)

大災害時は救助もおくれがちになります。自分の安全が確保できる範囲で、消火や救助活動などを手伝いましょう。

家族や友人、大学などとの連絡(1日程度以内)

あらかじめ決めておいた方法(4ページ参照)などにより互いに連絡をします。大学にも居場所やけがの状態などを伝えましょう。

講義中だったら…

書棚やつり下げテレビなどから離れ、机の下などで身の安全を守ります。実験器具や薬品などを使用している場合はすぐに離れ、揺れがおさまったら可能な範囲で始末をします。

学内の避難

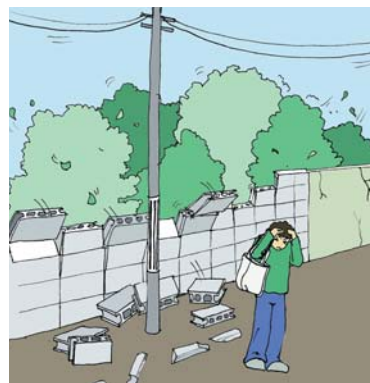
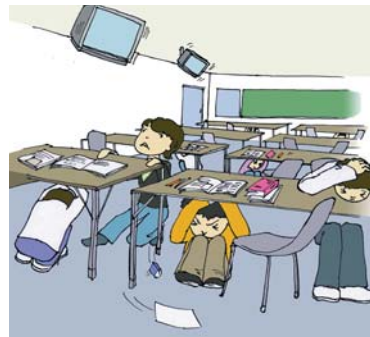
おおぜいで出口や階段に殺到するとたいへん危険です。教員の指示に従い、落ち着いて避難してください。

通学途中だったら…

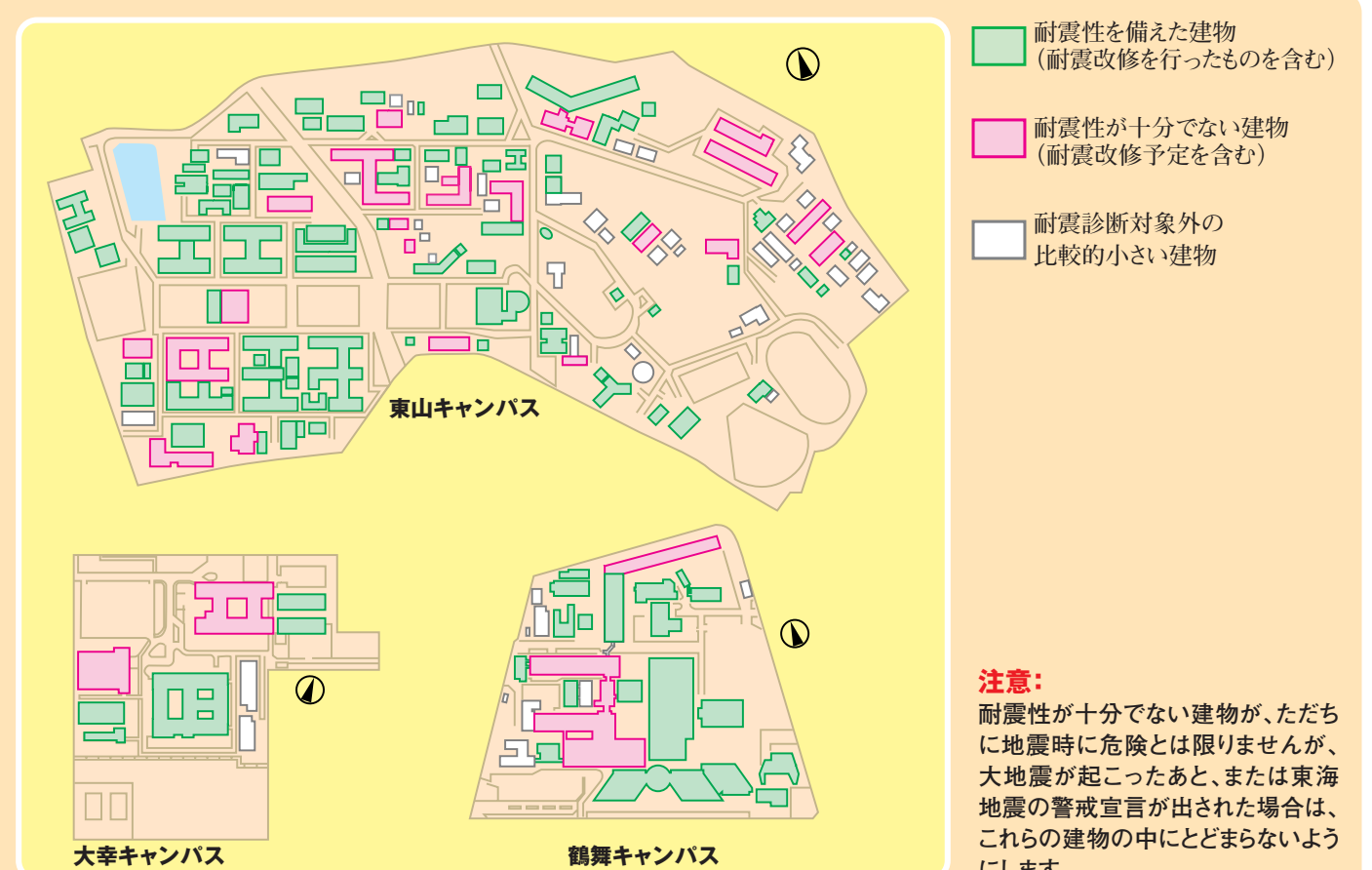
歩いているときは、ブロック塀や自動販売機、看板、ビルのガラスなど危険物から離れます。カバン等で頭を守って、公園や広場などの安全な場所へ。

電車や地下鉄、バスなどに乗っていたら…

車内放送を聞き、落ち着いて係員の指示に従います。勝手にドアを開けて外に出ないこと。対向車両などの危険があります。



名古屋大学キャンパス建物の耐震性



学内の地震防災対策は確実に!

什器や機材の転倒・落下・破損などの防止

背の高い書棚やロッカーは転倒しないように固定し、パソコンやテレビ、重い書籍や破損しやすい機材は落下防止策を確実にとりましょう。キャスターのついた機器は、臨時に固定する方法もあります。

実験装置や薬品の危険防止

実験室では、重く壊れやすい実験機材が多く、危険で有毒な薬品やガスなども使用しています。地震時の安全のために機器の固定や破損防止、薬品の漏洩防止などの対策や、消火器の設置などをしましょう。研究室をあげて対策に取り組むことが重要です。大地震の際は、可能な限り装置を安全に停止し、火気の始末等をしますが、無理はしないようにします。

避難場所や経路の確認

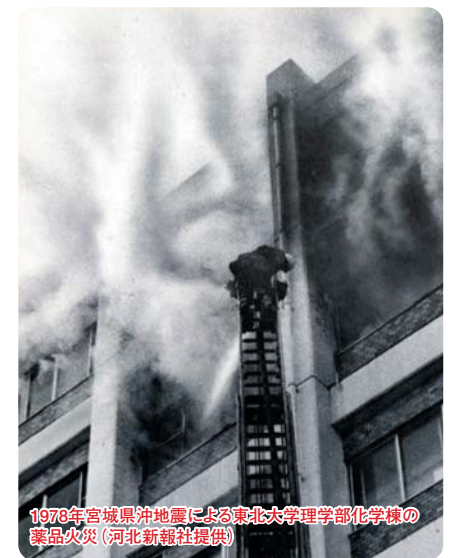
建物ごとに屋外避難場所や避難経路が決められています。あらかじめ確認し、スムーズに避難できるようにしましょう。また階段や非常口などに荷物を置いたりしないよう注意します。

みんなで確認して備えましょう

非常時には互いに助け合う必要があります。教職員と学生で非常時の対応を定期的に確認しましょう。研究室などでは、教員との緊急連絡方法の確認や災害時の非常持ち出し品の準備などしましょう。



1995年阪神・淡路大震災による神戸大学内の被害
(神戸大学提供)



1978年宮城県沖地震による東北大学理学部化学棟の
薬品火災(河北新報社提供)

日頃の備えが大切!

住まいを安全に

耐震性のある建物に住み、家具の転倒やガラス破損などの対策をすることにより、地震時の危険を大きく減らすことができます。古い住宅の場合は耐震改修を検討してください。また、アパートなどでは家具を固定するねじが禁止されている場合もありますが、安全のために管理者に交渉しましょう。

非常持ち出し品を準備

食料や水(3日以上)、現金や保険証など貴重品、ラジオや懐中電灯、衣類や薬品など、災害時に必要なものをまとめておきましょう。持病の薬やめがねのスペアなど、必要なものはひとりひとりで違いますので注意。

避難経路や避難場所の確認

自宅や職場近くの避難場所と、そこまでの避難経路を確認しましょう。家族で落ち合う安全な場所を決めておくことも重要です。警戒宣言(4ページ参照)が発令された場合の帰宅方法をチェックしておきましょう。

連絡方法も忘れずに

家族や友人と連絡する方法を相談しておきましょう。大災害時には、自分の居場所や状態(けがの有無など)を大学に知らせてください。名大ポータルも利用できます(4ページ参照)